



富山市

面積1241.85km²。人口約42万人。1979年からブラジル・サンパウロ州のモジ・ダス・クルーゼス市と姉妹都市として連携。医療機器や救急車の寄贈、親善訪問団の相互派遣などを通じて交流を深めている。81年に友好都市となった中国の秦皇島市に対しては、農業、医療、行政などの分野で研修を実施。また、地域ぐるみで環境対策に積極的に取り組んでおり、2011年に「環境未来都市」に選定された。

知見をブラジルへ

「環境未来都市」に選定され、循環型社会の実現に向けた取り組みを進める富山市。その知見を今、ブラジルの姉妹都市、モジ・ダス・クルーゼス市へと伝えている。

[富 山 県]

富 山 市



モジ・ダス・クルーゼス市の資源ごみ分別センター。カタドールやカタドーラだった人々が制服を供給され、センターのスタッフとして勤務している

リサイクルの推進を通じて 快適なまちづくりを

ペットボトル、缶、ガラス、プラスチック。ベルトコンベヤーに乗って運ばれてくるごみを、手際よく分別していく作業員。ここは、ブラジルのモジ・ダス・クルーゼス市の資源ごみ分別センター。この地域では、各家庭で「生ごみ」とリサイクル可能な「資源ごみ」に分別するのがルール。回収日に家の前に出し、市が回収する仕組みになっている。しかし実際は、分別がきちんと行われず、資源ごみの多くが生ごみと一緒に捨てられていることも少なくない。市内には焼却施設がないため、ごみは最終処分場で埋め立てるしかない。しかし、そのスペースにも限りがある。

ごみの減量化のためにも、資源ごみのリサイクルを推進しなければ。その取り組みに協力しているのが、1979年から姉妹都市協定を結んでいる富山市。これまでも交流はあったが、共に「事業を進めるのは初めてだ。」

きっかけは2010年。富山県とサンパウロ州の友好提携締結25周年を記念し、富山県南米親善訪問団がブラジルへ。その際、訪問先の一つだったモジ・ダス・クルーゼス市の市長からごみ処理問題の相談を受けたのが富山市の関係者だった。

富山市は、再生可能エネルギーの導入をはじめ、循環型社会に向けた取り組みが評価され、2011年に「環境

リサイクルの



20年間、リヤカーを引いて資源ごみを回集してきたカタドーラ。彼らの社会的地位の向上も課題

未来都市」に選ばれた。「町内会への出前講座、子ども向けの3R※推進教室に職員を派遣するなど、環境教育に力を入れています」と富山市環境センターの石黒健一さん。その知見をブラジルに伝えられれば。JICA北陸の草の根技術協力事業を通じて、両市の挑戦が始まった。

ごみ問題の解決に向けて 深まるきずな

2012年8月、モジ・ダス・クルーゼス市を訪問した北野勤・富山市環境センター所長と石黒さん。そこで確認したのが、市の回収以外に、カタドール（女性はカタドーラ）と呼ばれるごみ収集人によって資源ごみが集められているという事実だった。その多

くは貧困層。資源ごみをリサイクル業者を持って行き、換金して生計を立てている。

彼らはごみを集めるときに防護服や手袋をつけない。破傷風などの病気に感染するリスクが高い上、社会的地位も低く、貧困から抜け出せない。そこで富山市が提案したのが、彼らが組織的に活動できるよう「カタドール組合」を設立すること。カタドールを組織化すれば、市としても予防接種の奨励や環境教育を行いやすくなり、資源ごみも効率的に回収できるからだ。

そして何よりも、市民にリサイクルに対する理解が広まらなければ、何も始まらない。まずは、富山市の取り組みを彼ら自身の目で確かめてほしい。そこで2012年10月、モジ・ダス・クルーゼス市の職員が富山市を訪れ、ごみの分別方法や焼却場、ペットボトルや缶のリサイクル施設を視察。「効率的にリサイクルを進めるシステムを見習いたい」などの声が上がった。

さらに富山市の保育園では、市の職員が作ったリサイクルについての紙芝居、ペットボトルを再利用した服の紹介などの「体験型」の3R推進スクールに参加した。「子どもたちの関心を引き付けるための工夫を参考にしたいですね」と緑・環境局のアンドレ・サイバさん。子どもたちが資源ごみを学校に持ち寄り、地域ぐるみでリサイクルを実践していく取り組みを始める予定だ。



モジ・ダス・クルーゼス市への協力を富山市民にも知ってもらおうと、ブラジル料理教室を開催。研修員と交流を深めた

モノを大切にしておき出さない、資源は分別して再利用する。子どもたちからこの姿勢を身に付けられれば、必ずごみ問題の解決につながる。地球の反対側から日本人が来てくれることが市民の心を動かし、リサイクルへの参加意欲の向上につながっています」と、基盤整備局のジョゼ・ロドリゲスさんは話す。

まだプロジェクトは始まったばかり。ごみ問題の解決に向けて、二つの市が共に一歩ずつ歩み始めた。

※Reduce(廃棄物発生抑制)、Reuse(再使用)、Recycle(再資源化)の頭文字の略。



富山市環境センター所長の北野さん(右手前)とモジ・ダス・クルーゼス市の担当者たち



富山市が保育園で行った3R推進スクールを視察し、参加型の環境教育を学んだ